

令和4年（2022年）の秋サケの資源状況について

令和4年6月27日

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構
さけます・内水面水産試験場 さけます資源部

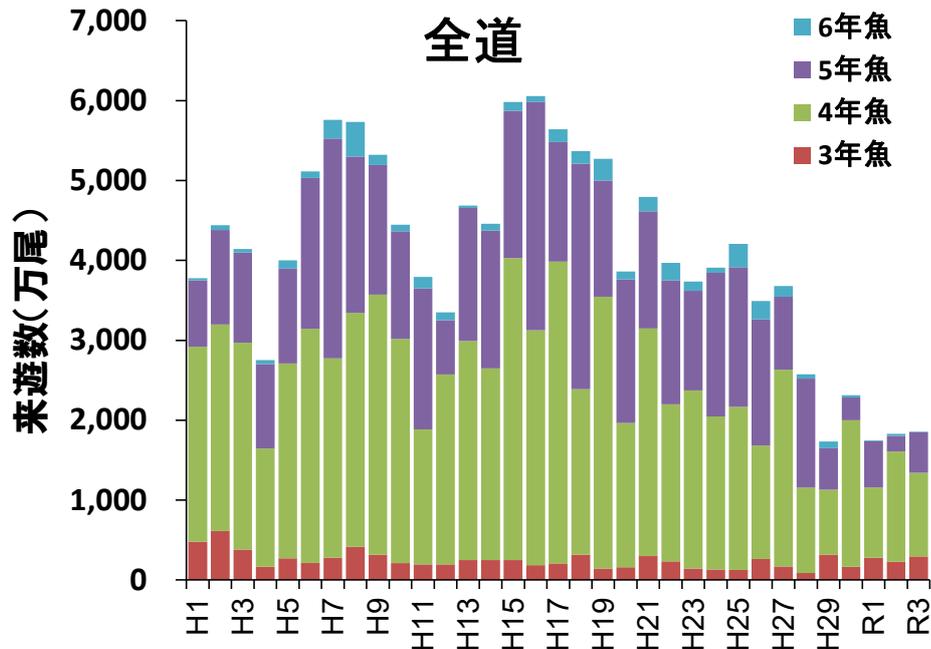


図1 北海道への秋サケの来遊数（年齢別）の推移

令和3年の北海道への秋サケ来遊の特徴

○令和3年（2021年）の全道への秋サケ来遊数（沿岸での漁獲数と河川での捕獲数の合計）は1,863万尾、前年比で102%と、令和2年以降僅かですが増加が続いています（図1）。予測に対する実績の値は111%と全道では予測をやや上回る値となりました。一方で、地域別にみると実績が予測を大きく下回る地区も見られました。これは知床半島付近の沿岸水温が高く推移したことや赤潮の発生により、来遊に地域的な偏りが生じたためと考えられます。

○年齢別来遊数について、4年魚（平成29年生）は1,044万尾で平成以降3番目に少なく、5年魚（平成28年生）は511万尾で平成以降3番目に少ない値でした。一方、3年魚（平成30年生）は296万尾で平成以降の平均値を19%上回りました。

○時期別では、前期が1,108万尾（前年対比114%）、中期が692万尾（前年対比92%）、後期が70万尾（前年対比63%）と、来遊が前期に偏る傾向が継続しました。

○令和3年の平均目廻りは3.19kgと前年の3.15kgから若干増加し、過去10年の平均値の97%にまで回復しました。

各海区への来遊状況

○令和3年の各海区への来遊数はえりも以西で前年を大きく下回り、それ以外の海区では前年並みまたは前年をやや上回りました（図2）。

○年齢別にみると来遊の主群である4年魚は根室で前年を若干上回りましたが、それ以外の海区では前年を下回りました。5年魚はオホーツク、根室、日本海で前年を上回りましたが、えりも以西・以東では過去10ヶ年で最低の水準となりました。3年魚は日本海とえりも以東で前年を大きく上回りましたが、それ以外では概ね前年並みとなりました。

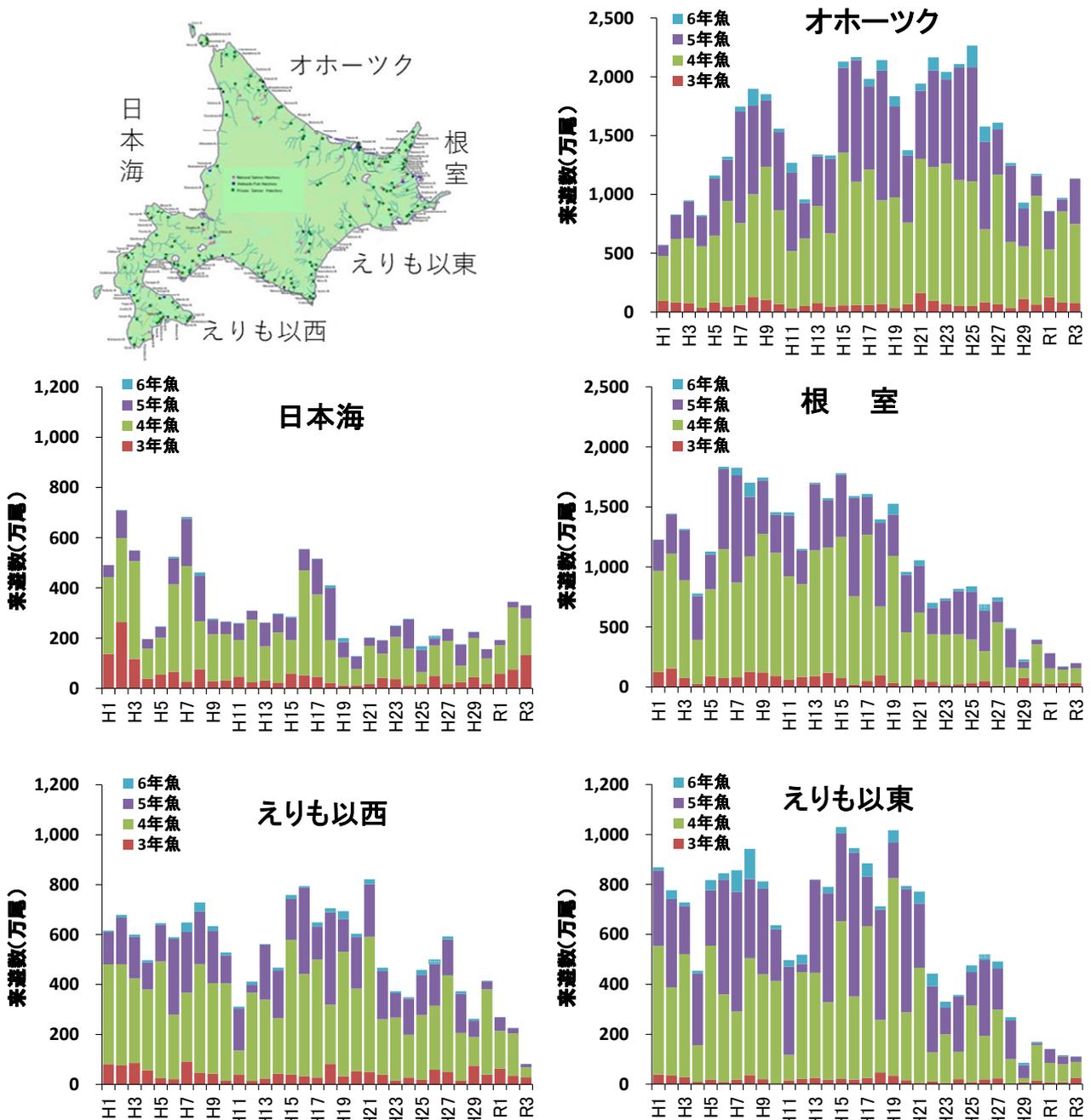


図2 各海区への秋サケの来遊数（年齢別）の推移

今年(令和4年)の来遊予測

○これまでと同様にシブリング法を基本に来遊数を予測しました。この手法では、前年の3年魚の来遊数から今年の4年魚の来遊数を、前年の4年魚の来遊数から今年の5年魚の来遊数を推定します(図3)。

○近年、急速な成熟年齢の**若齢化**が進んだことにより、予測精度が低下していることが明らかになりました。このため、令和3年以降は**若齢年級**のデータ(図3の○)だけを使って分析を行い、予測値を算出しています。

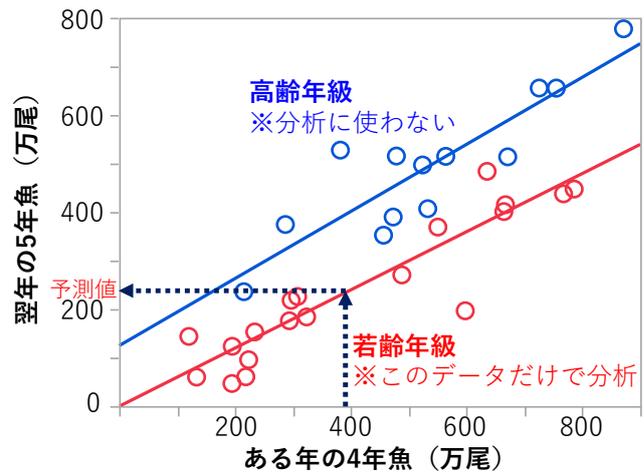


図3 シブリング法(例:A地区)

今年の予測値

令和4年(2022年)の全道への秋サケ来遊数は2,052万尾と予測しています。地区別の予測値は下表のとおりです。

海 区	地 区	令和4年 予測値(千尾)	令和3年 来遊数(千尾)	前年比(%)
オホーツク	東 部	4,015	3,665	109.6
	中 部	3,230	4,721	68.4
	西 部	2,828	2,983	94.8
	小 計	10,073	11,369	88.6
根 室	北 部	1,910	1,705	112.0
	南 部	272	275	98.7
	小 計	2,182	1,980	110.2
えりも以東	東 部	821	474	173.4
	西 部	1,019	647	157.6
	小 計	1,841	1,120	164.3
えりも以西	日 高	850	286	297.6
	胆 振	377	203	185.8
	噴火湾	342	182	187.9
	道 南	266	150	177.8
	小 計	1,835	820	223.7
日 本 海	北 部	1,258	839	150.0
	中 部	2,053	1,615	127.1
	南 部	1,278	888	143.9
	小 計	4,589	3,342	137.3
北 海 道 総 計		20,520	18,632	110.1